

---

<埼玉発世界行き奨学生レポート NO.6>

みなさん、こんにちは。平成23年度「埼玉発世界行き」奨学生で、23年9月から1年間スイス連邦工科大学ローザンヌ校に留学しておりました小林将之です。今回は、私の留学先であったローザンヌについて紹介いたします。

ローザンヌはスイスの西側に位置するヴォー州の州都であり、中央ヨーロッパで最大級の湖であるレマン湖の北岸に面する静かで美しい街です。交通アクセスも良く、ジュネーブ・コアントラン空港から鉄道に乗って40分、ローザンヌに到着です。

ここは坂の多い街、まずは駅から湖に向かって下ります。湖につくと、対岸にはフランス・エビアンの街が見えます。みなさんにも馴染みが深いミネラルウォーターのエビアンです。もちろんレマン湖の水も澄んでいてとてもきれいです。海のないスイスでは湖岸をビーチと呼んで、夏には多くの人がビーチでスポーツをしたり、泳いだりして楽しんでいました。日本人にとってのビーチは海岸ですから、文化の違いを感じますね。

一度駅まで戻って、今度は坂道を上ります。徐々に見えてくるのは石畳の旧市街。日本には無いような街並みを見ると、ヨーロッパに来たのだということを実感出来ます。さらに石畳を抜けて、木の階段を上りましょう。そこにはローザンヌの大聖堂があります。鐘楼からはローザンヌの街並みと美しいレマン湖を一望することができます。ここから見た景色は、私の一生の思い出になりました。

ローザンヌには、州都であることに加えてもう一つの顔があります。それは、Capitale Olympique、オリンピックの首都であるということです。近代オリンピックの父、クーベルタン男爵が中心となり組織された国際オリンピック委員会の本部が、ローザンヌに設置されたことがはじまりです。オリンピック博物館では、歴代オリンピックのメダルや聖火トーチの実物が展示されているほか、近代オリンピックが開始される経緯から現在に至るまでの歴史を知ることができます。

ここまで言いましたが、実際に行って体験してみるのが一番ですね。興味の湧いた方は、ぜひローザンヌに足を運んでみてはいかがでしょうか。

芝浦工業大学大学院修士2年 小林 将之

(平成23年度埼玉発世界行き「協定留学コース」奨学生)

---